ラムに、『「寝たきり」少ないわけ――高齢福祉と小学校』をこわごわ書きました。なぜ、こわごわだったかというと、当時、「寝たきり」は「寝かせきり」だ、などと言っている専門家はいなかったからです。おまけに、当の私はというと、この分野では新米中の新米だったからです。

案の定、高名な教授やお医者さんから猛烈な反発を受けました。「どこかに寝たきり老人が隠されているのにちがいない」「寝たきりになるような年寄りは適当に死なせているのではないか」

でも、お年寄り本位の介護をしている特別養護老人ホームやリハビリ専門医からは声援の手紙が届きました。

次に掲げた表は、左ページが、八五年当時の日本とデンマークの比較です。絶望的なほどの違いでした。

社説で、コラムで、連載で、本で、シンポジウムで、この違いを手を換え品を換え訴え続けました。

そうこうしているうちに、「寝たきりは寝かせきり」という訴えは次第に市民権を得てゆきました。学者の論文に、他の新聞の連載記事に、イベントのタイトルに、「寝かせきり」という言葉を見かけるようになりました。

日本も、市町村が国が変わり始めた！
1996年秋までに変わったこと
1989年　厚生省に介護対策検討会 「寝かせきりにしない介護」「市町村を中心に」「社会保険方式を組み合わせた介護費用調達の検討」などを提言 1990年「寝たきり老人ゼロ作戦」始まる 1990年　ホームヘルパー10万人計画 1991年　報酬年額百万円のアップ 1992年　厚生省“脱お役所仕事の勧め” 1994年　ホームヘルパー17万人計画 1995年　24時間巡回型モデル事業 1996年　公的介護保険与党三党合意
1993年　厚生・通産省福祉用具法施行 1996年　滋賀県に補助器具センター
1989年　知的障害でグループホーム制度 1990年　江戸川区の住宅改造補助事業 1994年　長寿社会対応設計指針案 1995年　特養ホーム居室面積8→10㎡ 1996年　金融公庫がバリアフリー優遇
1992年　厚生省移送サービスに国庫補助 1992年　大阪府福祉のまちづくり条例 1994年　建設省がハートビル法
1990年　ゴールドプランでデイセンター 1995年　宇治市が小学校にデイセンター
1992年　老人訪問看護ステーション制度 入院中から退院計画する町も かかりつけ医制度の検討
療養型病床群が登場。質に問題あり
「福祉は投資・雇用創出」という意見も
1989年　高齢者医療福祉推進10カ年戦略 1995年　障害者プラン7カ年戦略
1992年　老人保健福祉計画マニュアル 「家族の介護力に過大な期待をかけぬよう十分留意されたい」
1990年老人福祉法改正で市町村が主役に 出前する江戸川区、鷹巣町の未来工房 「前例がないからやる」市町村や施設が
老人医療費9兆円（毎年0.6兆円増）
お洒落奨励するグループホームや特養も
息子による要介護父殺人・母子餓死事件 介護疲れ夫の心中事件などが今も

	キャンペーンを始めた1985年当時は、こんなに差があった	
	デンマークでは	ところが、わが日本では
	寝たきり老人という役所用語がない リズムある生活→リハビリ効果	寝たきり老人という失礼な役所言葉 寝かせきり→廃用症候群
介助と介護	人口換算で50万人のホームヘルパー 権限給料高く・尊敬される仕事 24時間体制で生活の節目に現れる 所得に関係なく派遣→堂々と利用	ホームヘルパー2万5千人 給料は安く・男性が寄りつかぬ仕事 週に数回・昼間だけ現れる 低所得世帯が対象→肩身が狭い
	淋しい時も押してよいSOSベル	命にかかわる時だけ押すSOSベル
補助器具	体に合った自助具や補助器具を 補助器具センターや市町村が タイミングよく 無料で貸出し	体をダメにする車いすや “寝たきり製造ベッド”が横行 役に立たず場所ふさぎ 杓子定規な生活用具
住宅と施設	建築基準法でバリアフリー義務づけ 市町村が高齢者親切住宅	つぶれなければ、燃えなければ結構 という建築基準法→段差だらけの家
	限りなく自宅に近い雰囲気の 市町村立の特養ホーム（プライエム	雑居の特養ホーム 特養ホームが足りず老人病院へ
外出の楽しみ	送迎サービスで買い物や音楽会へ 高齢者・障害者がお洒落して街に 背景に1970年代のバリアフリー法	「在宅」という名の密室 外出できない高齢者・障害者 背景に段差だらけの店やビル
	小学校区に1つのデイセンター 難聴者のための磁気ループが常識に	自宅に閉じこもり 耳が遠くなると孤独に
医療と連携	名探偵みたいな市町村の訪問看護婦 入院した時からの退院計画 家庭医という名の専門医	医師の指示でしか動けぬ看護婦 退院後に役所に申請し、待たされる 往診は「奇特なお医者様」だけ
	治ったら退院。老人病院はない	病院でチューブ食・縛り・薬漬け
行政の哲学	福祉充実が社会保障費の伸び抑える	福祉充実は経済の足を引っ張る
	年次計画を立てて、企業家精神で	単年度主義で行き当たりばったり
	自己決定権、人生の継続性の尊重のための在宅重視、あわせて財政対策 自助のための惜しみない支援	家族とボランティアの無給労働をアテにした在宅奨励、「自助努力」と「根性」を日本型福祉の名で奨励
	現場に権限と責任→無駄が減り創意 役所が自宅に、病院に出向く 「前例破り」を奨励	中央にお伺いをたてて…… 役所の窓口に市民を呼びつける 「前例がない」が口癖
そして	医療費の伸びにストップ	とめどなく医療費が増大
	お洒落と笑顔と誇りと美しい歯	入れ歯をはずされウツロなまなざし
	3世代近居で、愛情豊かに	老夫の老妻殺し・老人自殺・人生を捨てたヨメ→家族の愛は目茶滅茶

そして、右ページの表が、八九年から九六年にかけて日本の各地で始まったこと、変わったことです。これを見ると、日本も変わる、変えられる、そんな希望がわいてきます。